

新刊

□大橋広好・邑田 仁・岩槻邦男（編）：新牧野日本植物圖鑑。1458 pp. 2008. ¥25,000 + 税. 北隆館. ISBN: 978-4-8326-1000-2 C0645.

本書は植物図鑑として定評のある牧野圖鑑の新版であり、牧野富太郎博士没後 50 年を機会に出版されたものである。牧野富太郎自身による『牧野日本植物圖鑑』（1940）、同改訂版（1949）、前川文夫、原 寛、津山尚らが監修した『増補版牧野日本植物圖鑑』（1956）、同じく三氏による『牧野新日本植物圖鑑』（1961）、小野幹雄、大場秀章、西田 誠編集の『改訂増補牧野新日本植物圖鑑』（1989）に続く六代目となるのか。

本書では、以前の版と比べて、次のような部分に改訂がなされたという。すなわち、検索表、学名、学名の著者名、記述と用語図解、学名解説、の五つの部分である。このうち検索表は既存のものを手直ししたというのではなく、新たに制作されたものである。検索表は種子植物の検索表とシダ植物の検索表に分かれ、それぞれ 88 ページ、10 ページと大部のものになっている。種子植物の検索表では、葉が緑色かどうか、植物体が水上にあるかあるいは水中にあるか、といった分かりやすい言葉を用いて目的の植物に辿り着くように工夫されている。検索表そのものに用いられている語句も十分に吟味がなされていて、かなり手間をかけたのではないかと推察する。図書の購入予算が限られた学校教育や社会教育の現場で、本書一冊で何とか目的の植物の名前を知ることができるようにと、新たに検索表を制作した努力は評価できるだろう。

それでも検索表ではいくつかの術語は使わざるをえない。これは主に印刷スペースの関係である。そうした、難解な術語に遭遇した時に参照するのが牧野圖鑑定番の「植物の用語図解」である。しかし、用語図解はこれまでどおり巻末にまとめられ、参照するのが少し不便である。

「近年、分子系統学による系統解析と分類

学の基本である形態学の深化とによって」（本書より）、これまでとは異なる植物分類体系の構築の試みが現在盛んになされているのは周知の事実である。例えば、広義のユリ科が細分されつつあることに戸惑う読者も多いのではないだろうか？種子植物における科の扱いは現在は未だ落ち着いていないという認識に立ち、本書では我々がよく馴染んだエングラ体系にもとづいた配列を継承している。本書が植物図鑑という位置付けであるから、これは順当な扱いといえるだろう。学名は、今では我国のスタンダードとなった感のある、梶田 忠・米倉浩司の『BGPlant 和名—学名インデックス』（YList）に準拠している。

巻末の学名解説もまた牧野圖鑑の定番となっている。あまり目立たないところかもしれないが、随所に工夫がこらされている。とくに属名解説では専門家の立場から大幅な加筆が行われ、ちょっとした読み物としての性格すらもっているといえよう。野外での自然観察会のネタ本としても使えそうだ。活字のサイズは以前の版と変わっていないが、行間に少し余裕があり、印刷技術の向上もあってか、これまでよりも読みやすくなったように思う。

牧野圖鑑の線画はやはり素晴らしい。文字解説では触れられていないことが数多く線画で表現されている。経験を積みれば積むほどそのような思いを強くする。

（門田裕一）

□高知県・高知県牧野記念財団（編）：高知県植物誌。A4. 844 pp. 2009. ¥8,400 + 送料. ISBN: 978-4-9904108-1-0 C3545.

高知県は牧野富太郎博士の出身地であり、植物が豊富であるにもかかわらず（あるが故にというべきか）、植物誌が刊行されていない数少ない県の一つだった。土佐植物研究会は 2001 年に、標本に基づく植物誌編纂事業に着手し、一般県民にも協力を求めて新たに 10 万点を超える標本を得た。これに